

今、神のことばが、すぐ、受け入れられるには どうすればいいか

ウィルヘルム・ブッシュ

クリスチャンなら、買い物客で雑踏する繁華街を歩いていて、この人々に福音を今すぐ伝えるにはどうすればいいか、と考えたことがあるでしょう。たしかにこれはむずかしい問題のように思われます。

街を行く人々は、目先の用事や楽しみ、悩みごと、めんどなどで頭がいっぱいで、永遠についての神のことばを聞いてくれそうに思えません。私たちが熱心に福音を伝えようとしても、実際にできることは、ほんのひと声かふた声、人々に声をかけることがせいぜいでしょう。つまり、街をゆく人々に福音を伝えるチャンスは、私たちにはほとんど無いのです。

そんな中で、ある人が福音に耳を傾け、主イエス様を信じるようになったとすれば、それはまさに神のなさる奇蹟であり、主ご自身が聖霊を通して働かれた結果です。福音を伝え、ま

け、心を開いて主を信じるに至るのは、ひとえに神のみわざです。でも、もしあなたが神のことばをその人に取り次がなかったら、どうして福音が伝わるでしょうか。どうして神の愛が伝わるでしょうか。語ることは大切です。

でも、いざ語ろうとする時、人はどのように語ればいいのかと迷うのではないのでしょうか。多くの人は、自分はその役目を果たせるのだろうか、自分の語り方は正しいのかと自信をなくしてしまします。しかし、それはすべてが自分一人の責任であるのかのように思っているからなのです。

福音を伝えるためにはどうすればいいのか、という疑問に答えるために、私の体験をお話します。私は多くの街で福音を説き、人々が神のことばに耳を傾け、それを信じるという体験をしました。こんな風に言うとき、まるで私が成功ばかりしていたように聞こえますが、実際は数限りない失敗の連続でした。失敗した時は絶望のあまり気力も萎（しおれ）てしまします。しかしその失敗を通して、神は私に主の御国の伝道の奥義を教えてくださいました。それは次のことです。

今、神のことばが、すぐ、受け入れられるにはどうすればいいか

た証しをするためには、どうしても主ご自身による聖霊のお働きが必要です。祈れ、そうすれば主が聖霊を通して働かれる、という言葉のとおりです。現実はどうでしょうか。一つのたとえ話をしましょう。信仰を持つ主婦は誰でも、天の父は私たちを必ず養ってくださると信じています。でも、だからと言って彼女は、主が私たちを養ってくださるのだから、今日の夕食も主が用意してください。私たちは楽しみに待っていればよい、と言って何もしないのでしょうか。そのようなことはありません。彼女は自分で献立を考えて買い物に行き、心をこめて夕食の準備をします。家族においしいものを食べさせるのは自分の責任だと思っているからです。私たちが神のことばを人々に伝え、証しする場合もこれと同じではないでしょうか。

確かに、今まで神に無関心だった人が神の語りかけに耳を傾

「私たちのキリスト・イエスは、人間に見放されて十字架で死んでくださいました。これ以上の大きな敗北はなかったかに見えます。しかし、まさにこの敗北こそが最大の勝利だったので。今日、イエス様をほめたたえる者は、主が十字架の上で私たちを救い出すために死んでくださったという、その事実をほめたたえるのです。イエス様は一粒の麦となって地に落ちて死なれ、すばらしい実を結んでくださったのです」

私の伝道の限らない失敗の中で、思いもよらず実を結んだ一つの実例をお伝えしましょう。私はある小さな町で学生の集いを開いていました。でも、もっと対象を広げ、一般の方々も集える集会をやるべきではないかと思いい、地元（じもと）の牧師に相談しました。彼は、誰も来ませんよ、と気の毒そうに言いました。しかし、私と学生たちはやってみることにしました。皆で聖歌を歌いながら歩き、多くの家々に招待状を投げ込み、街をゆく人々を誘い、考えられるあらゆる方法を試したのです。その結果、集会に来てくれたのは女性三人、年老いた男性一人でした。会場はがらがらでした。こんなに少人数なら、教会でなくて小さな部屋

でもよかったな、と思いました。私はこの方法は失敗だと思いましたが、たった四人でも新しい方が来てくださったことは素晴らしいことでした。

次の集会に向かつて、私と学生たちは新しい方法を考え出しました。まず、街のスポーツクラブの「レクリエーションの集い」に出かけて行って、伝道集会への招待状を配り、参加を呼びかけました。しかしすぐに警備員の目にとまって外に放り出されました。その次に考えたのは、スポーツクラブ所属のサッカー・チームに試合を申し込む、という手でした。さいわいその試合に勝つことができたので、私たちは勝った、だから今度は、あなた方が私たちの伝道集会に来てくれるべきだ、と言って集会に招きました。これはほんの一例ですが、私たちは当時、人々を伝道集会へ招くために効果がありそうなことなら何でもやってみました。しかしその結果は、残念ながらもじめな失敗の連続でした。毎回、私たちは打ちひしがれて家路に着きました。

しかし、その試みは思いもしない形で報われることになりました。多くの試みを通して一人の卒業間近の高校生が興味を示

し、福音を聞いて信仰へと導かれたのです。さらに彼は卒業後優秀な化学者になり、近くの町に住み、そこで熱心に伝道して多くの人々を神のもとに導いたのです。これが、私たちの多くの試みの果てに神がくださった貴重な実だったのです。

さて、今回のテーマ「今、神のことばが、すぐ、受け入れられるにはどうすればいいか」に戻りましょう。人が福音を聞き、受け入れ、救われるのは、たしかに神が聖霊を通して働かれる結果です。しかし、ここで問いたいのは、では私たちには何ができるのかということです。そのために、「今、神のことばが、すぐ、受け入れられるにはどうすればいいか」という題名から、その中に含まれる一つひとつの単語を取り上げて、ごいっしょに考えて見ましょう。

「今」——現代は福音が伝わりにくい時代なのか

最初に取り上げるのは「今」です。確かに見方によっては、現代は数百年前とは全く違った時代になっています。高度情報化社会であり、多元的価値観の社会であり、エネルギーと環境問

題の社会であることは、いまさら言うまでもないことです。しか

し、長期的な歴史観を持つている人々は、そういった時代の奥に流れる原則として、人間は基本的にはいつも同じであり続ける、ということに気づいています。ゲーテは、人間は長い時代を通して本質的には何も変わっていないと言いました。聖書が描いているように、人間は今も昔も、自己中心的で、自分は不幸せだと思い、嘘つきで、つねに神から逃げようとするまことにやっかいな者であり、孤独で、憤りも愛も持たない存在なのです。

二千年前に、そんな人間のすべての罪を贖うため、主イエス様が十字架上で死んでくださいました。生まれながらの人はみな、神の目から見ても失われた存在、罪人です。しかし神は、そんな罪人の私たちを滅びから救い出そうと、心の戸をたたき、語りかけようとしておられます。私たちは主から見れば愛されている罪人なのです。人類は進歩し、神を必要としなくなり、福音を伝えるのは困難だと言う人がいますが、神が私たちに注がれる愛を考えれば、そんなことは的外れです。また、現代の社会は高度に複雑になったから、伝道のためには情報科学や心

今、神のことばが、すぐ、受け入れられるにはどうすればいいか

理学、社会学などの深い知識が必要だという意見もよく聞きますが、これも見当はずれです。神はご自身、全能の力をもって私たちに働きかけておられるのです。

「神のことば」——「自分の言いたいこと」を伝えてしまう誤り

人々が神のことばを受け入れようとしなないのは、私たちが混り気のない神のことばそのものを伝えるのではなく、神について考えたこと、自分が持つ信仰のこと、集っている教会のことを語るからではないでしょうか。神はそのようなことを語れとは言われません。私たちは神ご自身のみことばを伝えなければならぬのです。パウロはテサロニケの人々に次のように書きました。

こういうわけで、私たちとしてもまた、絶えず神に感謝しています。あなたがたは、私たちから神の使信のことばを受けたとき、それを人間ののことばとしてではなく、事実どおりに神のことばとして受け入れてくれたからです。この神のこ

とはは、信じているあなたがたのうちに働いているのです。

(1テサロニケ 2:13)

聖書の内容を切り取って、その中からいくらかの真実らしいものを絞り出し、それが神からのメッセージ(神の語られることば、伝言、啓示)であるかのように、大胆に主張する傾向が私たちにあるのではないでしょうか。しかし、まさしくそこに大きな弊害があります。聖書にさまざまな人為的操作を加えることによって、知らない間に「神のメッセージ」から「人のメッセージ」にすり替わってしまうのです。

私たちは、神のことばをまっすぐに伝える代わりに、自分の信仰や聖書の用語解説などを語りがちです。どうすれば主イエス様のもとに導けるかでなく、人を説得する方法に思いをめぐらしがちです。極端な場合には自分の知識を誇示します。イエス様の十字架を中心に、罪、悔い改め、回心、罪の赦しについて話す代わりに、生活の助言をしてしまいがちです。聖霊による聖めを伝える代わりに、人生をうまく乗り切る方法を語り

がちです。ああ、このような私たちが主が憐れんでくださいますように。今、世の中の人々にとっては「人のメッセージ」などまったく興味を引かず、何の役にも立ちません。人々は、まさに「神のメッセージ」を必要としています。

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。(ヨハネ 3:16)

私が聞いたかったのはまさにこのことだ、と世界中の人々が渴望している神のことばこそが語られるべきです。それなのに、神のことばを誰一人伝えない、ということこそが最大の問題です。

人々が神によって救われ、罪から解放されるには、神のことばそのものが必要だと聖書が説いていることを、私たちはそのまま受け入れるべきです。私たちは、神のことばという最も大切なものをそのまま提供すべきであり、そうしてこそ福音が救い

に至る道として人々に受け入れられるのです。なぜなら主ご自身がみことばを約束し保証されるからです。

私の個人的な体験を二つ話します。一九六二年の夏、私はエッセンのグルーガ会館で開催された「ドイツ歌のフェスティバル」で礼拝を担当するように頼まれました。そこに集まる人々はあまり教会に行かない人々だと聞いて、私は、これはよく考えなければいけないと思いました。フェスティバルに参加する人々は熱心な信者ではないにしても、きっと自分たちの歌が神によって祝福され、高められることを望んでいるに違いない。だから歌があるところには心の安らぎがあるというテーマで話をしようと思いつきました。さらにその中に、ルターが音楽の大好きな女性を賞賛した、という逸話を入れようと準備しました。

しかしその時、主は、どうすれば神に祝福され、神の子どもとされるかを宣べ伝えよ。十字架上で死に、よみがえった救い主を証しせよ、と明確に示してくださいました。

しかしそれにもかかわらず私は主に向かって「主よ、彼らは、そういった話を聞く心構えなど全く持ち合わせていないのです。

今、神のことばが、すぐ、受け入れられるにはどうすればいいか

舞台には自由主義者、無神論者、外国人など雑多な人々が集まった合唱団やオーケストラが並んでいます。イエス様の話を始めるなら、彼らはいったいどんな態度に出るでしょうか。彼らは音楽について、あるいは神がいかに彼らの歌を愛しておられるか、などということを知っているに違いないのです」とぶつぶつと文句を言い続けました。しかし主は、私に何の憐れみもかけてはくありませんでした。私は、私の考えた話をすることにこだわっていたのですが、主は、ご自身のメッセージをそのまま伝えることを望んでおられました。最終的に私は諦め、私たちが神の子どもとされる唯一の道は、ただイエス様を通してだけなのだというメッセージを用意し、舞台で話しました。私の周囲の合唱団もオーケストラも、観客も、息詰まるような緊張感をもって耳を傾けていました。会場には、主の聖さが満ち、主はこの機会を十二分にお用いになったのです。

時が良くても悪くてもしつかりやいなさい。

(2テモテ 4:2)

私たちは、神について、福音について語ろうとすると、今は時が悪いと感じてしまうのではないでしょうか。しかし、私たちが聖書の真理を、信仰に立つて語り始めるその時は、まさしく神ご自身の時なのです。

神のメッセージは、語る自分がそれを心から信じている時にだけ、人々に受け入れられます。現代の人々は、単なる長話と神のメッセージとの違いを聞き分ける耳を持っています。

ある福音伝道会の後で記者会見がありました。その時、私は、記者に向かって次のように言いました。「あなた方は私にいろいろと質問しました。今度は私から皆さんに質問させてください。あなた方は、取材で得られた情報を、深く真剣に受け止めておられますか。あなた方は私の話をまとめて福音伝道の記事を書かれますね。でもそれが終わると次はカーニバルの取材、畜産組合の取材、選挙の取材と、次から次に記事を書くのでしょうか。そこで質問しますが、取材によって得たものの何を、あなたがたは真剣に受け止めることができるのですか」。すると二人の記者がまじめな顔で「たった今、私たちは単なる長話と真

剣に受け止めるべき真理のことばの違いを知ったところです」と答えました。そして彼は、「私たちの前に座って語っている人自身が、今、自分の伝えていることを心の底から信じているかどうか、私たちにはすぐにわかるのです」と付け加えました。この記者が言ったことは、現代の人々の誰にでも当てはまります。

福音を伝える私たちはつねに、「あなた自身は、聖書の言葉を本当に信じているのですか。もしそうならあなたの言うことを聞きたい。でも、そうでなければ聞く意味はない」と真剣に問いかけられています。

「すぐ」——直ちに神のことばを伝える

「すぐ」について考えてみましょう。そのためには、反対の言葉である「まだ」について考えてみると思います。「まだ」は否定的な意味で使われます。実は私は「まだ」という言葉を、私の辞書から消し去りたいと心から願っています。

「まだ」は逡巡（しゅんじゅん）と撤退を秘めた言葉です。最近、新聞に、わが国のキリスト教徒のうち百人中四人しか実際

来ていたが、今は違う、といった反論がでることも承知しています。確かに私もキリスト教社会の良い習慣が失われ、教会自体が街から消え去った例も知っています。だからこそ、教会の責任者や信者は、私はまだ守っている、まだがんばっているという意識を持ち、まだという言葉を使わずに、まだがんにばつていく意識を守り、まだという言葉を使わずに、まだがんにばつていく意識を守り、礼拝を守る、というのと同じではないでしょうか。信仰は守っていればよいのでしょうか。

福音、神のことばは、勝利の上に勝利を重ねるお方、主イエス様についての神のメッセージです。ヨハネの黙示録にはこうあります。

彼（主イエス）は冠を与えられ、勝利の上にさらに勝利を得ようとして出て行った。
（黙示録 6・2）

神に対する時には、まだという言葉は不信仰、みことばへの逡巡を意味します。主なる神は、天においても地においてもすべての権威を持ち、すべての力を働かせ、時空を超越して勝利に向かって戦い、攻めておられます。このような万軍の主が、主を信じる者の口から、「まだ」という逡巡の言葉を聞きたいと思っておられるでしょうか。

しかしこれについては、二二百年の間に人間が急速に墮落、俗化してしまったのではないか、昔は聖日には誰もが教会に必ず今、神のことは、すぐ、受け入れられるにはどうすればいいか

だ。続けられてはいるが、明らかに衰弱し、かつての良い習慣を一つずつ失っているという受身な考え、消極的な見方でした。私は悲しくなりました。

主イエス様に従う者は、常に積極的な姿勢を取らなければなりません。私たちは、自分の辞書から、まだ、という言葉が消し去る必要があるのです。私たちは、まだ的思考に陥ってはなりません。「まだ」でなく「すぐ」はどんな時代にも必要です。

まだ、にはまた、問題に向かつていこうとしない消極的、放任的な姿勢があります。それは、今すぐ、と要求される主の命令を先送りし放置するという態度です。主がお喜びにならないのは当然です。このように見てくると、すぐ、という主のご要求が、私たちにとっていかに大事であるかが自から明らかです。

黙示録11章3節から12節に述べられているふたりの証人も、殉教の死に至るまでイエス・キリストの旗を掲げ、逡巡せず積極果敢に行動しています。私たちもまた、主なる神の福音を伝えるためには、躊躇（ちゅうちょ）、撤退、つまりまだ、などと言っている暇はないのです。現代に生きている人々を見てください。

の人々は、知性や理性によつて神からのメッセージを受け入れるのだと考えています。だから知性や理性に根ざした、神についての質問をよく受けます。でも知性や理性によつては、いくら議論したところで結論を得ることはできません。

ある時私は、聡明で教養ある人と神について議論をしたことがあります。彼は私の質問に辛抱強く答えてくれました。彼は、三位一体やイエス・キリストの処女降誕から始まって現在の教会のあり方まで、聖書に書いてあることに共感できず、いらだたしい思いをしていると言いました。話が終わった後で、私は彼が離婚した直後であることを知りました。これは私にとって大きなショックでした。なぜなら私はこの人と長時間話したにもかかわらず、彼が真に何を求めているのかを察知できなかったからです。彼は別れた奥さんとの関係をどうすることもできませんでした。彼は自分の奥さんへの負い目に触れられなくなかったのです。

この男性は、しばらくしてもう一度会いたいと言っていました。そこで私は彼のところに行つて次のように話しかけました。

今、神のことが、すぐ、受け入れられるにはどうすればいいか

生きる意味を失い、内面的に燃え尽きている人々の何と多いことでしょう。このような状況の中であつて、私たちが拠（よ）つて立つべきものは神のことば以外にはありません。私たちにはこのすばらしい神のことば、福音が与えられています。恵みの時は限られています。ですから私たちは、今すぐに神のことばを人々に伝えなければなりません。かつて、ある教会の指導者は、今もなお、人々に信じるに足るものを提供できるのは、私たちキリスト者だけですと言いました。人類の歴史始まって以来、今日ほど神のことば、福音が必要とされている時代はありません。私たちは今すぐ神のことばを語らなければなりません。まだという言い訳に終止符を打たなければなりません。

「受け入れられる」——議論に拠らず、良心に語りかけることによつて

次に「受け入れられる」という言葉を見てみましょう。どのようにすればみことば、神のメッセージが受け入れられるでしょうか。知性によつてでしょうか。理性によつてでしょうか。多く

「今のままの生活を続ければ、あなたは地獄に直行することをご存じですか」。こんなことを言えば、彼が怒つて私を家から放り出すかも知れないな、と瞬思いました。でもこれを語ることはどうしても必要だったのです。彼は、私にはそれが分かっていた。だから今日、ぜひあなたとお話ししたいと思つたのですと言つたのです。これでお分かりかと思いますが、このように神様のメッセージが受け入れられるのは、理性によるのではなく良心によるのです。

パウロは、すべての人々のうちに良心を見出すことができると言いました。また、神の裁きについても明快に述べています。異邦人の中には、このようなパウロの説教に反発し、理論的、知的でないとかあざ笑う者もいました。しかし、その反発とかあざ笑いが、実は彼らの内にある良心の呵責を表していたのです。神のことば、神のメッセージは、私たちが間違つた伝え方をするなら受け入れられません。私たちが福音を伝える場合、人々の良心にではなく理性に訴えようとするなら、それは際限のない時間の浪費となります。神のメッセージは人々の良心に向けられて

いますから、神のメッセージが人々に受け入れられるのは、彼らの良心に語りかけられている時だけなのです。多くの人々は良心に触れると、心は落ち着きを失い、時には敵意まで表します。でも、その時、無意味な空論は消え去っているのです。

ある集会で私が大勢の学生に向かって話している最中、議論をしてもいいですか、という声がかかりました。私は「君たちには私はいのちと死について十分に話した。この問題については君たちには二者択一の道しかないのだ。いのちに至るか、永遠の滅びに至るかだ。君たちはそのどちらかを選ばなければならぬ。議論などしている暇はないんだ」と答えました。

「どうすれば」——ただ、まっすぐ、神の言葉を、主の權威によつて伝える

「今、神のことばが、すぐ、受け入れられるにはどうすればいいか」。この題名の中で最後に残った言葉は「どうすれば」です。

最近、働く若い人が集まると、新しい言葉が必要だという主張をよく口にします。彼らはいつも何か目新しい先進的なス

ローガンを欲しがり、新しい言葉を捜しています。でも、新しい言葉は別の福音を意味することにもなりかねません。今、私たちが必要としているのは、新しい言葉ではなく、まっすぐな言葉ではないでしょうか。

聖書の福音を語る人々の中には、決まりきった言い回しばかりする人々が大勢います。牧師や神学者たちでさえそうです。目を閉じて彼らの話を聞いていると、まるで録音を繰り返し再生しているかのように思えたりもします。しかし、神のメッセージを伝える時は、イエス様が話されたように日常で使われる言葉で、率直に語るべきです。また、どんな言葉や言い回しをするかということよりも、はるかに重要な点があります。それは、福音そのものがまっすぐに語られているかどうか、ということです。福音が明快に語られていなければ、たとえどんなに新しい言葉や言い回しが使われたとしても、全く意味がありません。

福音を宣べ伝える時に余計な回り道は必要ありません。ある伝道者は、人々に神のメッセージを受け入れてもらうために、少し回り道をする必要があります。しかし、あれこれ

話をした挙句に、いきなり頭をひっぱたくように福音を語るのでは現代人には受け入れられません。そのようなことでは、聞いている人は、あなたは一体何をしたいのか、神のことを話したいのか、それともただ議論をしていたのか、あるいは無理やり「うん」と言わせたいのか、などと言うに違いありません。私たちの使命は福音を伝えることであり、そのためには余計な回り道はいつさい必要ないということです。

戦時中、私が若くて未信者の将校だった頃、負傷して南ドイツのある町の野戦病院に入れられたことがありました。同じ部屋には、神様から遠く離れた幾人かの将校たちも入院していました。彼らの心は戦いに傷つき疲れており、空虚で不幸そのものでした。そんな時、二人の牧師が病院を訪ねて来ました。牧師は天気や戦争や私たちの怪我を話題にしながら、少しずつ福音の話に誘い込んでいこうとしていました。

当時、若くて生意気だった私たちは、牧師が霊的な話を持ち出そうとするたびに面白半分に茶化しました。そして彼の家族のことや、彼が兵隊に行かなかった理由などを次々に質問し

たので、牧師は話したいことを二切口にすることができず、そのまま引きさがってしまいました。この不愉快な思い出は、後に私が信仰を持ち、私自身が牧師として病院を訪問するたびに苦々しく思い出されました。

後になつて私が牧師として病院を訪問する立場になった時、挨拶がすむとすぐ彼らの関心事について短く会話した後、次のように切り出すことにしました。「読みかけの新聞を片づけてくれませんか。トランプも片づけてくれませんか」。病院でなく、個人のお宅に集まった主婦が相手の場合には、ほんの少し家事の手を休めてここに座ってくださいとお願ひし、それからこう切り出しました。「実はあなたがたのために、とつても大事なことをお伝えするためにやってきたのです」。そしてイエス様について、神との平和について話しました。そうすると、集まった人たちは熱心に聞き出したのです。人々は心の底では神様に対して飢え渴いているのです。

今は故人となられたローレンツェン牧師とかつての軍港の町キールに行ったことがあります。第二次世界大戦直後のことで

今、神のことばが、すぐ、受け入れられるにはどうすればいいか

した。市街のあちこちに爆撃で破壊された家屋の残骸が残っていました。その二つの高くて危険な壁の上に二人の若者が立つて、誇らしげに何かを叫んでいるのが見えました。それを見てローレンツェン牧師は、「困りましたね。体誰があいつた若者にイエス様の福音を伝えることができますか」と言いました。私は、「彼はあなたの言うことも私が言うことも聞かないでしょう。でも、もし若い自動車修理工がああ壁に登っていつて彼の横に座り、『よくこんな高い所に登ってきたな。偉いぞ。でも、これが最高じゃないかもしれない。君には最も大切なものがまだ欠けているよ』と言えましょうか」と答えました。今、神のことが、すぐ、受け入れられるためには、語るにふさわしい人が、ふさわしい場所、ただ、神のことが、福音メッセージをお伝えすればよいということなのです。

福音メッセージを語るにあたつてもっとも大切なのは権威ではないでしょうか。最近、ある教会の新聞で次のような記事を読みました。

「ある小さな町に二人の医者が出た。一人は人気者で、患者た

空論でした。

この新聞記事を読んで私が抱いた不満は、霊的な権威に関して何の問題提起もされていないことでした。伝道に最も必要なのは、主が与えられている霊的な権威です。いくら人当たりがよく、おしゃべりでも、神から与えられる権威が備わっていないければ、ただのおしゃべりに過ぎません。また、神学に通曉した冷淡な神学者は、神からの権威が与えられていなければ、愛のない教師に過ぎません。

神のことは、神のメッセージが人々に受け入れられるのは、真理を語る人が神からの使命と権威を与えられている時だけなのです。たくさんの人々が神について語ります。しかし、彼らは神からの権威を持たず、神からの使命を受けていない場合が多いのです。

もう一度先ほどの教会新聞の記事に戻しましょう。神学的知識は乏しくとも人々に語りかける親しげで温かい語り口も、神学理論的に高度であっても冷たい語り口も、そのどちらも、聞いている人々の心に触れることはできません。問題は人間的な

今、神のことが、すぐ、受け入れられるにはどうすればいいか

ちと温かく接し、いつも気軽に冗談を言い合うような医者だった。しかし残念ながら彼は最新の医学知識と最先端の医学技術に欠けていた。大勢の患者がこの医者の所に喜んで通っていたが、病状が深刻になると、彼らはもう一人の医者の方に行ってしまった。このもう一人の医者は、患者の取り扱いが事務的で冷淡だった。しかし彼は、医学的な深い知識を持ち、適切な最先端の治療法を知っている医者だった。福音を伝える伝道者の場合も、同じことが言えるのではないだろうか。気軽に親しげに話してくれる伝道者は人々の人気を勝ち取ることができるかもしれないが、多くの場合、彼らの神学的知識は非常に乏しい。彼は最新の神学書を読んでおらず、新しい研究には全く通じていないことが多い。だから深刻な問題を抱えた人々は、神学的基盤がしっかりした伝道者の所に行くのだ」

教会の新聞の内容はざっと以上のようなものでした。不思議なことにこの教会の新聞には、心を込めて人々と親しく話し、なおかつ神学的素養についても十分に身に着けた伝道者が存在する、という視点が落ちていました。どう見ても偏った二者択一

のではありません。主イエス様は言われました。

わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。
(ヨハネ 15:5)

神のことが取り次ぐ時、最も重要なことは、いかに語るべきではなく、主イエス様ご自身が語る人に資格と能力を与えてくださっていることです。ですから、みことを語る権威は、語る人が神さまとどのような関係を持っているか、にかかっています。

「今、神のことが、すぐ、受け入れられるにはどうすればいいか」について考えてきました。最も大切なことは、語る人が、密室の祈りによって神との絶えざる交わりのうちにいることです。たとえ人間的には能力や資質に問題があると思われる人であっても、主が使命と資格をお与えになるなら、その人が語るメッセージは人々に受け入れられるのです。主なる神は私たちに人間的な知恵を求めておられるのではなく、私たちの忠実さを求めておられるのです。